

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.29 2019年 冬号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワワンくん」

突撃！鳥海イヌワシみらい館⑪ 山形県自然公園管理員 畠中裕之氏
蜂蜜の森から⑧「安心安全な蜜ろう」

「オジロワシ×オナガガモ」酒田市にて撮影：佐々木真一

Interview

突撃! 鳥海イヌワシみらい館 ①

山形県自然公園管理員 畠中裕之さんに聞く



チョウカイフスマと、鳥海山を南限とするイワブクロ



—— 山岳ガイドをされていますが、鳥海山の特徴を説明していただければと思います。

標高2236メートル。東北では燧岳の次に高い山であり、海岸に山裾のある山で2000m級は鳥海山ぐらいです。生物相としては花が非常に多い山です。「百名山」「新百名山」「花の百名山」「新花の百名山」の4つすべてに選定されている山は、東北では鳥海山と月山のみです。ブナ林の上に針葉樹林帯がない偽高山帯では典型的な山で学術的な面白さもありますので、玄人にも楽しめると思います。

—— 昨年、畠中さんが鳥海山で発見したホウネンエビ類が新種として記載されました。発見、記載までの経緯

についてお伺いできればと思います。

残雪期にトンボ調査の下見で水たまりを発見しました。最初に見たときは北海道と下北で見ついているキタホウネンエビが鳥海山にもいるのだなと思い、知り合いに「鳥海山にもいたよ」と連絡しました。そこから「これは違う」ということになり、5年を経て新種「チョウカイキタホウネンエビ」が記載されることとなりました。私自身は血眼で新種を探していたということではないので、何か特別な感覚はありません。新種を見つけるチャンスは、誰にでも等しくあります。学名は地名の「chokaiensis」にしてほしかったのですが「hatanakai」になってしまいました。



畠中裕之 ● はたなか ゆうし

1967年生まれ。遊佐町出身。山形県自然公園管理員。環境省希少野生動植物種保全推進員。鳥海山・飛鳥ジオパーク認定ガイド。



湧き水の川を遡上するサケ



チョウカイキタホウネンエビ



ハタハタの産卵を狙うオオセグロカモメ



山裾の休耕地で餌を探るアナグマ



鳥海山外輪で産卵するハヤチネフキハッタ

—— 畠中さんの自然観を変えるターニングポイントなどはありましたか？

小学生で酒田市に引っ越しましたが、近所に白畑孝太郎さん(※1)がお住まいでした。幼い私に様々な昆虫標本を見せてくれて、夏休みの自由研究を見てもらったりしていました。「こんなことができるのは子供のうちだよ」と、大人の白畑さんから言われましたが、今もこうして自然と触れ合う仕事をしています(笑)。

—— 印象に残っているフィールドはありますか？

ノートの表紙撮影でプロカメラマンに同行して 撮影協力しました。オーストラリアの乾燥地帯、インドネシアの熱帯など現地環境を体験できたのは忘れられません。最近はお親御さんが昆虫に我慢できないようですっかり表紙に使われなくなってしまって残念です。やはり学生時代に工藤忠さん(※2)と駆けた日本のフィールドが一番ですね。

—— 環境が変わってきていると思うことはありますか？

私がお子供のころだと「開発によって



倒木を崩して中の生き物を探す



恐る恐るジムグリにさわる

※鳥海山での撮影はすべて畠中裕之

生き物が減った」というのが環境問題でしたが、今は人口減少による遺物が問題になっています。地方では道路建設など良くも悪くも局所的な開発にとどまっているなという印象ですね。温暖化については、気象データを調べてみれば確かに最高気温と最低気温の上昇傾向は出ているのですが、積算温度を見ますと早い方向にシフトしているのかなと思います。花の咲く時期や昆虫の出現時期がずれるという現象が起こってくれば、生態系の乱れにもなってくると思うので、これからの環境を注意して観察する必要があると思います。

—— 自然を利用する人に一言お願い

します。

人間は文字に残すことができるという特技を持っているのですが、所詮1000年程度の知識しかありません。野生生物は数億年前から数々の試行錯誤を重ねて進化してきました。人間は自然に対して謙虚たれと言いますが、自然に対して人間が知っていることは数%でしかないということに自覚し、自然に対する尊敬の念を忘れないで行動してほしいのです。

(※1) 大正3年～昭和55年。警察官として職務に精励する傍ら、昆虫の研究に生涯をかけ学術に貢献した。茂吉文化賞受賞。

(※2) 1957年 青森県生まれ。津軽昆虫同好会の中心人物として活動し、親蟻性蝶類や昼行性蛾類などの生態の解明に尽力する。日本鱗翅学会、日本蝶類学会。

庄内の動物情報コーナー

暖冬傾向の今冬。平野部では1月中旬まで雪の少ない状況で、子供たちは雪遊びができなくてなんだか残念な様子ですが、大人たちは除雪作業から解放されてルンルンです。センターのある鳥海山では、今冬の”暖冬”は無縁。容赦なく雪が積もっています。先日、某県を運転中にコウノトリが2羽で飛んでいるところを目撃したのですが、写真を撮るわけにもいかず…。情報や写真の投稿は moukin@raptor-c.comまで。



2018/11/10「ヤマヒバリ」酒田市
時化る晩秋の飛鳥にて撮影されました。ヒバリとは似ても似つかないカヤクグリ仲間だそう。アイリングが目優しい。
撮影：石澤様



2018/11月「カシラダカ」鶴岡市
(助さん)「頭が高〜い！控え居ろ〜！」の通り、頭の冠羽が特徴ですが、似た種もいっぱい。ホオジロかな〜どっちなかな〜？
撮影：匹田様



2018/12/28「ホンドギツネ」鶴岡市
年末寒波が来た仕事納めの日の帰り道。田んぼの畔から急に飛び出てきたのは…キツネでした。こんな時のための車載カメラです。
撮影：本間憲一



2019/1/13「キンクロハジロ」酒田市
水上の侍キンクロハジロ。ちょんまげが目印です。たまに強風になびいてウルフカットのやつもいますが…。ちなみにちょんまげがないのはスズガモで別の種類です。
撮影：たっちゃん様



2019/2/2「オオワシ」酒田市
ハクチョウで有名な最上川河口鳥獣保護区。実は様々な鳥が確認されます。本州では少ないオオワシも利用していますので、運が良ければこういった姿も見られますよ！
撮影：田澤様



番外編2018/12/18「ヘラサギ」新潟県
首の長い白い鳥は、ハクチョウやサギが有名ですが、中にはちょっと珍しいこんな鳥も。サギと呼ばれているトキの仲間。詐欺じゃないか！正面から見るとくちばしがしゃもじ型になっています。撮影：波多様



番外編2018/12/18
「チュウヒ(&オジロワシ)」新潟県
黒と白に色が分けられた猛禽類に「マダラチュウヒ」がありますが、これはそのカラーパターンが似ている大陸型のチュウヒ。後ろには体格が何倍もあるオジロワシが…
撮影：波多様



番外編 2018/12/31「ムクドリ」神奈川県
おびただしいムクドリのねぐら入りの様子だそうです。その数4000羽！多い日は10000羽にもなるそうです。宮沢賢治の「鳥をとるやなぎ」というお話に出てくる光景と同じだと感じたとか。撮影：こまたん様



番外編 2019/1/13
「オジロワシ」秋田県
毎年撮影者のお住まいの近くにやってきて越冬しているようです。最近では本州でも繁殖が確認されましたので、こちらの地域でも注意して観察してほしいですね。
撮影：山島様

イベント開催報告

○観察会「チュウヒと冬の渡り鳥を見よう！」

12月1日(土)観察会「チュウヒと冬の渡り鳥を見よう！」を開催しました。講師は希少種保護増殖等専門員の長船裕紀です。会場は酒田市の小牧川水門にて開催しました。当日は強風と気温の低さから、外での活動を短時間で切り上げ、観察小屋からの観察をメインとしました。夕方のチュウヒのねぐら入りを観察する目的で時間を設定し待ち構えていたのですが、残念ながらこの日は出現してくれませんでした。しかし、私たち山形県民の愛する最上川にこのような希少な猛禽類が環境を好んで生息していることについては、参加者誰も誇りに思っていただけではないかと思っています。野生動物のための環境保全と、河川開発や管理のあり方について考える良い機会になってくれればと思います。天候の悪い中、遠くからも参加して下さいありがとうございました。

この日見られた鳥トビ、ノスリ、ハヤブサ、オオタカ、カイツブリ、カワウ、カルガモ、コハクチョウ、オオハクチョウ、ミコアイサ、コガモ、ツグミ、ウミネコ、ダイサギ、ドバト、キジバト、ハシボソガラス、マガモ、モズ 計19種



○出前講座「鳥っこになろう！」

酒田市の西荒瀬保育園で出前講座「鳥っこになろう！」を開催しました。講師は長船裕紀(希少種保護増殖等専門員)です。今年度は鳥に加えて、西荒瀬保育園に隣接する「しんちゃん森」に生息する動物たちも調べてみようということで、森の木に「自動撮影カメラ」を設置して、どんな動物たちが見られるか調べてみることにしました。撮影された写真のほとんどが猫や犬でしたが、野生動物では「タヌキ」や鳥類が撮影されており、子供たちも興奮して映し出される映像を見ていました。スライドを使って鳥類の体のことについても楽しく勉強しました。西荒瀬保育園の皆さんありがとうございました。



○観察会「冬のワシ・タカ探し」

「冬のワシ・タカ探し」と題して鶴岡市の大山下池にて観察会を開催しました。講師は日本野鳥の会山形県支部長の築川堅治さんです。吹雪で視界が取れない時間帯は、講師の築川さんによる軽妙なトークで場が和みました。開始から1時間ほど経った頃には、木にパーチするオオワシの姿を確認することができました。初めて観察したという参加者もあり、興奮した様子です。大型海ワシ類のダイナミックな飛翔と堂々たる止まり姿を目の当たりにしながら、生物の多様性に触れた時間となりました。参加してくれた皆さん、講師の築川堅治さんありがとうございました。

この日見られた鳥オオワシ、オオタカ、トビ、ノスリ、マガモ、ミコアイサ、トモエガモ、ヨシガモ、カワウ、オオバン、ダイサギ、コハクチョウ、アオサギ、ヒシクイ、シジュウカラ、ハシボソガラス、エナガ、ヒヨドリ、アオゲラ、オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ、マガン、ホシハジロ、計24種





蜂蜜の森から 第8回「安心安全なミツロウ」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第8回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



白い「蜜蓋」とはみ出した「無駄巣」



残留検査済みの蜜ろう

乾燥するこの季節は、ハンドクリーム用に蜜ろうを求められる方が多いです。蜜ろうは養蜂で採れるミツバチの巣のことで、私の製造する蜜ろうそくの材料です。

オリーブオイルなどの植物油と1:4~5で混ぜ合わせると、保湿効果抜群のクリームが作れます。市販のもので効果がない方は実は使われている石油系材料や防腐剤に負けている場合があるのだそうです。おかげさまで、喜びの手紙やメールをたくさんいただいています。クリームはまだありません。

ところが近頃、市販の蜜ろう化粧品で炎症が起こる事故が報告されるようになりました。実は蜜ろうも化学物質に汚染されているものがあるのです。それは養蜂でミツバチに寄生したダニを落とすために、採蜜のしない秋に使用するダニ剤です。脂溶性のためハチミツには残留しないのですが、蜜ろうには簡単に残留します。その残留した薬剤が、アレルギー性の皮膚炎を引き起こすらしいのです。

ミツバチの巣は、数年使いますから古い巣ほど残留度は高くなります。私の仕入れ先の実家や同業の

養蜂場には、蜜巣を覆う「蜜蓋」と巣枠外に作られた「無駄巣」のみの収穫をお願いしてきました。これは、作りたての新鮮なものです。

しかし、収穫の仕方薬剤が残留している古い巣が混じらないとも限りません。私の蜜ろうを使って誰かが肌を痛めたらと思うと、とても不安です。

そこでハンドクリーム用の蜜ろうは、山形県理化学分析センターに依頼してダニ剤の残留を検査し、「検出せず」のものだけを使用するようにしました。これで胸を張って安心・安全な蜜ろうになりました。私も安心になりました(笑)。



安藤竜二 (あんど う りゅうじ)
1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソック製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

より良い普及啓発のために、皆さんと協力して運営していく会の設立を計画しています。(本)

事務局

GW体験イベントで「オーガニックハンドクリーム作り」計画中！私の手がすべすべに???(村)

希少種保護増殖等専門員

イヌワシの抱卵は順調でしょうか？まずは無事に雛が誕生してほしいです！！(長)

鳥海南麓自然保護官

地元の皆さんに当センターのことを知ってもらうために一層の宣伝に取り組みたいと思います。(澤)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 2月~4月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・3月は火曜休館、4月は無休

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

[f https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor](https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor)

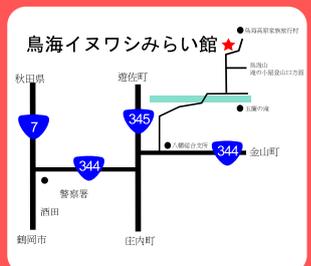
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.29 冬号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)